

## 子どもがもつ「風」「ゴム」のイメージ

## 子どもがもっている「風」や「ゴム」に関するイメージ

子どもは、ふだんの生活で「風」や「ゴム」についてほとんど意識していないのが実情です。そこで、子どもの「風」や「ゴム」についてもっているイメージを事前に知り、学習を通して、「力」を意識させていくように意図的に指導していくことが大切です。

## ●3年生が「風」という言葉に対してもっているイメージの例

自然の中にあるもの	生活の中にあるもの	感覚的なイメージ	学習後に出てくる「風の力」のイメージ
春 風の向き そよ風	扇風機 シャボン玉	冷たい 寒い	飛ばされる 強弱
冬 北風 空気	飛行機 換気扇	気持ちよい ヒュー	進む 吹き飛ば
秋 西風 息 台風	ヘリコプター 風船	涼しい 広がる	強い スピード
つむじ風 竜巻	風車 凧揚げ	ビュー あたたかい	うなる 迫力
ハリケーン 嵐	風力発電 風車	吹く ふうふう	風力
かまいたち 雲 空	袋 紙飛行機	見えない 消す	
大波 雨 鳥 波	カーテン	ふわふわ	
林 森 木 草 花		透き通っている	
髪の毛 花びら		なまあたたかい ヒヤッ	

## ●3年生が「ゴム」という言葉に対してもっているイメージの例

生活の中にあるもの	感覚的なイメージ	学習後に出てくる「ゴムの力」のイメージ
輪ゴム 風船 バネ	伸びる 留める 円い	飛ばす 一瞬 強い
消しゴム ガム ゴム跳び	しぼる 跳ねる ビヨーン	エネルギー 進む 大きい
ゴムのひも 洋服 靴下	痛い 弾く 切れる	速い
茶色 赤 オレンジ	引っ張る	
ゴム鉄砲 ズボン 帽子		
髪留めのゴム ヨーヨー		
タイヤ 練り消しゴム		
ゴムのパッキン スーパーボール		

## 風力と外のようなす・物作りでの注意

自然の中での風を意識できるようになった子どもには、気象庁などで使用されている風力の段階について発展的に知らせると、自然に対する興味・関心をさらに高めていくことができます。

(表はビューフォート風力階級より一部抜粋)



風力	外のようなす
0	煙がまっすぐに昇っていく。
1	煙がたなびくが風向計での計測はできない。
2	顔に風を感じる、木の葉が動き風向計での計測が可能になる。
3	木の葉が絶えず動いている、軽い旗がはためく。
4	ほこりが舞い上がり、木の小枝が動く。
5	小さな木がゆり動く、水面にさざ波が立つ。
6	大枝が動き、電線がうなり、傘をさすのが困難になる。
7	樹木全体がゆれ、風に向かって歩くのが困難になる。
8	木の小枝が折れ、立っているのが困難になる。
9	簡単な構造物が倒壊する。
10	立木が倒れ、かなりの被害が生じる。

事故  
防止

## 物作りでの注意

おもちゃづくりなどの物作りに使う道具には、刃物などの「切れる」道具が多くあります。けがをしないように、気をつけて使うように指導しましょう。

- ・刃物の危険性をしっかり知らせましょう。
- ・道具の使い方、持ち方、切り方の指導は必ず行いましょう。
- ・はさみやカッターナイフは、よく切れるものを使いましょう。切れないとより強い力を使うので、かえって危険性が高まります。
- ・カッターナイフの刃を出したまま持って歩いたり、ふざけて振り回したりしないように注意しましょう。
- ・はさみやカッターナイフを手に持ったまま、他のことをしないように注意しましょう。
- ・ポケットに入れないように指導しましょう。
- ・使うときは、刃を動かすほうに自分の手や指をもっていかないようにします。また、そばに人がいないことを確かめましょう。
- ・千枚通しは、台の上に固定して使います。新聞紙を敷いて使うなどして、机を傷つけないように注意しましょう。
- ・グルーガンは、先端部が高温になるので絶対に触らないように注意しましょう。やけど防止のため、手袋をつけて作業するとよいでしょう。電源を入れたままで、先を下に向けていると、溶けたスティック(樹脂)が垂れる場合があるので気をつけます。使用後は、必ずコードをコンセントから抜くようにしましょう。
- ・スティックが溶けてできた接着剤は、すぐに触らないようにします。溶けた接着剤が皮膚に付いたら、水などですぐに冷やします。症状がひどい場合は、病院へ連れて行きましょう。
- ・学習が終了した後、貸し出したときの数が戻っているかを確認しましょう。